

新「能代市」の誕生を促して！

〜一体感づくりのために〜

木の町としての伝統とぬくもり、そして
落ち着きを感じさせる直売所。
その直売所を運営する「大地の会」会長、
佐藤弘さんにお話を伺いました。

ニツ井町の農産物直売所『きみまち杉ちよくん』が、10月20日、「道の駅ふたついで」にオープンしました。建物は、くぎを打たない木組みの構造で、地元産の秋田スギがふんだんに使われています。

直売所の近くには「きみまち阪」などの観光名所もあり、ほかにはない特色となっています。



オープンしてまだわずかですが、目標を上回る多くのお客さんで、大変喜んでいます。交通量の多い国道沿いで、大型バスも駐車できるなど恵まれた環境です。休憩で道の駅を利用する方々が、買う買わないにかかわらず、立ち寄ってくれます。

地元産の新鮮な野菜、花、米、いろいろな加工品などを並べています。注文を受けてから握る、できたての「おにぎり」もあります。個人や団体など40組の農家会員が出品しています。直売所の特産品として、山ウド、小ナス、きみまち比内地鶏などがあります。正月三が日を除いて、年中無休の予定です。

能代の方々には、木組みで造られた建物の見学も併せて、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

第5回 木のぬくもり漂う農産物直売所

「きみまち杉ちよくん」オープン！



どうぞお立ち寄りください!! (道の駅ふたついで地内です)



秋田スギがふんだんに使われている店内には新鮮な農産物がいっぱいです。



のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

農林の記憶(一) 「天内植林頌徳碑」

天内の通称「はなれ山っこ」といわれる丘の上に、この頌徳碑は建っています。平成十二年に杉二十万本植栽の百年祭が行われました。明治二十三年に始まった植林作業は部落の事業であり、全戸が協力して美林をつくりました。その部落有財産から生じる利益は長い間、部落の経済に役立ちました。

昭和十二年に、事業の推進に貢献した須合泰蔵・山崎順治・山崎慶助・須合長治の四氏の遺徳を記念碑に刻しています。碑文は日吉神社宮司坂本定徳、書は高橋彦之丞です。

その碑文によると、植林を始めるまでは、境界を確定する他村との折衝や、官山の払い下げ、部落内の融和などで苦心も多かったようです。このような共有林の造成や維持がいかに難しい作業であるか、碑面に刻み込まれています。

このような共有林の記念碑は檜山新屋敷に建つ植林記念碑や浅内の西山共有林記念碑などがあります。森林資源はその生育に長い年月がかかり、その維持は難しい状態です。しかし、明治から昭和初期にかけては植林熱が盛んで、部落挙げての事業として行われました。それによって部落の結束が固くなったのも見逃せない効果です。(古内)

